

第4回 インフラ海外展開推進のための有識者懇談会 議事概要

日 時：平成24年7月31日（火）17：30～19：30

場 所：中央合同庁舎2号館 16階国際会議室

【「パッケージ型インフラ海外展開促進プログラム」について】

6月27日に開催された、パッケージ型インフラ海外展開関係大臣会合において取りまとめられた「パッケージ型インフラ海外展開促進プログラム」について事務局より報告を行ったところ、以下のようなご発言があった。

- 全体として非常によくまとまっている。優先順位をつけて実行していくことが大切。特に、モデル事業、公的部門のノウハウ活用、入札評価の改善について、優先して取り組んでいただきたい。
- 業界の要望も取り入れて頂いているが、受注目標達成のためには、官民の連携、政府の支援などをお願いしたい。また、川上から川下までの体制強化について、行政側でも関係省庁横断的な取組をお願いしたい。さらに、海外事業でのトップセールスやトップクレームを引き続きお願いしたい。
- 人材のことが強く取り上げられていることは良い。もう少し解釈を広げると日本への留学生のネットワーク活用なども考えられる。
- インフラ専門官について、本当の意味で要人とやりとりを行うには、長い時間をかけて信頼を築く必要がある。民間企業などは、現地に事務所を構えて長い時間をかけて現地と信頼を築いているので、こちらのほうが適任ではないか。
- 地方政府の役割は重要である。構想段階から地方政府と密度の高い接触を図る必要がある。地方政府レベルの要人招聘を行うことは、地域開発において有用であるので、インフラ専門官や在外公館と協力を図っていくべき。

【海外事例に基づく検討について】

海外事例調査の経過について事務局より報告を行ったところ、以下のようなご発言があった。

（PPPの定義・理念について）

- PPPについて、共通の認識を持った形で議論する必要がある。
- 日本には国際協力銀行や日本政策投資銀行といった政府系金融機関があるが、他の国はこうした機関からのお金が入っていてもPPPであると定義している。日本のように厳密にPPPを捉えていると、話が進まない。
- 純粋公共事業がPublic、利益が生じる事業がPrivateで、それらが混じった

ものが PPP という発想。Public と Private の住み分けだけでなく、日本がどのように対応していくのかということを考えることが必要。

- 日本は、海外展開の際にどうしても日本のやり方を前提としてしまいがち。日本において暗黙に了解されている理念はどのようなもので、海外における理念がどのようなものなのか。それらのどこがミスマッチなのかを認識し、フィットさせていかないといけない。

(鉄道分野について)

- 高速鉄道の案件形成・設計段階におけるプレイヤーとして、金融・法務ファームが関与しているとのことだが、シストラのような技術的側面におけるプレイヤーについても考えるべきではないか。
- 鉄道については、公的機関の関与がなければ成り立たないのが自明であり、政府の支援が必要。
- 自国で鉄道文化が根付いていない国がある。自国のオペレーターを育てる必要があるが、すぐには育たないので、支援が必要。
- 鉄運機構については、鉄運機構の名前で海外展開できるようにすることが必要。鉄運機構は独自のノウハウを有しており、海外展開を進めるうえで極めて重要な立ち位置を占める。

(航空分野について)

- 空港事業については、日本は施工だけで、立ち位置としては一番下。もっと川上から関与していきたい。
- 現在はアジアのプロジェクトに力を入れている。ベトナムの新空港については現地政府とやり取りを進め、人材交流も行っているところ。
- 政権交代の影響で PFI プロジェクト自体が無効になった事例がある。そのような際に国のサポートをお願いしたい。

(港湾分野について)

- 海外では、最初からターミナルを収益施設としてとらえている一方、日本は今まで、ターミナル自体の採算は考えず、周辺地域全体での税込収や雇用を重視するという、考え方の違いがある。
- 港湾については、海外にトップランナーがいるので、我が国独特のやり方を考える必要。
- 国内でターミナル事業等の伸びを期待することは難しく、海外の有望港で、船社と商社が連携してターミナル事業を展開するしかないという話がある。

(今後の取り進め方について)

- 過去の事例から、セクター別に学ぶことができる考え方と、地域別に学べる考え方とを、どのように一般化できるのか期待している。

- 過去から学ぶことと、今後の展開にギャップが生じるだろう。小さな事例であっても、成功事例が必要。ニーズを把握するマーケティングが必要。
- 案件形成段階から参入していくという話だが、今回の議論では見えてこないプロセスがあり、その部分を誰がリーダーとして担っていくのかということについて、もう一度確認する必要があるのではないか。

次回は水、道路といった別の分野を取り上げる。また、プレイヤーのあり方や公的部門の役割について整理し、傾向をまとめる予定。